英語学習に対する学習負担軽減のための方策

（英語部会企画）

日本リメディアル教育学会第10回全国大会
2014年8月20日
（東京電機大学）

鈴木政浩（西武文理大学）　阿久津仁史（東京都文京区立茗台中学校）
三沢渉（埼玉県立青陵高校）　小原弥生（尚美大学）
恒安眞佐（宇都宮大学）　中村紘子（武庫川女子大学）

1. はじめに　平野他(2013)における質問紙調査のデータから

「勉強をしようと思うかどうかは自分の努力で決まる」と思わせる要因

↓

「授業内容」要因

授業の進め方や面白さ
学習内容の難易度
学習量の適切さ
勉強の仕方

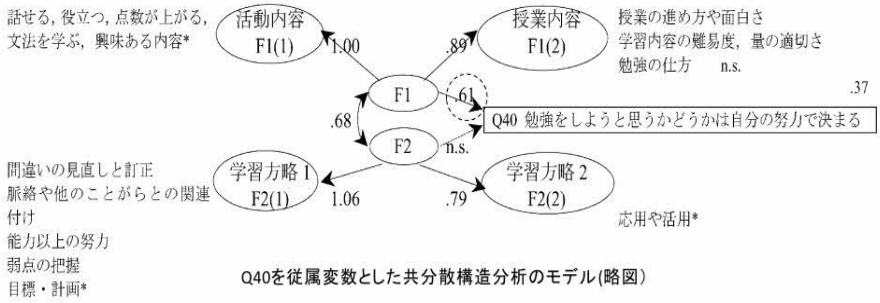
進め方や面白さ，勉強の仕方の指導が，学習内容の難易度や学習量の適切さとうまくかみあっていれば「勉強をしようと思うかどうかは自分の努力で決まる」と感じる可能性

嫌い時期の有無にかかわらず差のない要因

1. はじめに 平野他(2013)におけるモデル

考察と授業への適用2

活動内容・授業内容 促進 「勉強しようと思うかどうかは自分の意欲で決まる」



Q40を従属変数とした共分散構造分析のモデル(略図)

難易度、量やペースの調整がリメディアル英語教育独特のポイントか？

図1「勉強をしようと思うかどうかは自分の努力で決まる」を従属変数とした共分散構造分析のモデル

1. はじめに 本日の企画 流れ

本日の企画 流れ

1. はじめに(問題の所在 本企画の趣旨)
2. 中学の現場から(語彙定着・英文暗唱)
3. 高校の現場から(意味順式英語学習法とライティング指導)
4. 大学の現場から
   - 4.1 学生の個性や特性に応じた指導
   - 4.2 ペアによる音読指導
   - 4.3 ITの活用
5. 情報交流(日頃の授業実践から得られた示唆等)

2. 中学の現場から　英文暗唱

段落単位 → 1文単位 → フレーズ単位

フレーズサイトトランスレーション

1) リリアン・ビアードは口笛を吹き微笑んだ、 2) 働いている間。 3) 彼女は所得税の還付を受け、 4) そして462ドルポケットに入っていた。	1) Lillian Beard whistled and smiled 2) while she worked. 3) She got her income tax refund 4) and had $462 in her pocket.

More True Stories, 3rd ed. by Sandra Heyer, Pearson Longman(2009), p.59.

3. 高校の現場から

- 意味順式英語学習法とWriting指導
  （過去2年間平成24・25年度実践）

↓

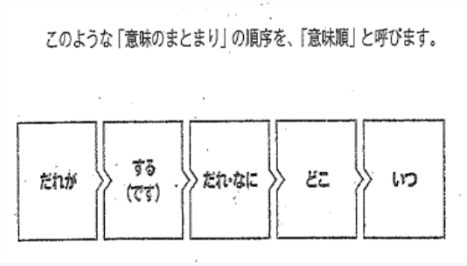
- 21世紀型スキル育成研修との出会い
  （平成26年度）

↓

- 知識構成型ジグソー法を取り入れた意味順式英語学習法によるWriting（実践途中）

「意味順」英語学習法　著者：田地野彰教授（京都大学）
（ディスカヴァー・トゥエンティワン刊）

意味のまとまり＝「意味順」



日英の語順に違いを「意味のまとまり」の順序の違いととらえさせる

▶STEP１　日本語を「意味」に変換する

「意味順フォルダ」に入れやすいように「意味」に変換します（主語などが省略されている場合は、ここで補います）。

▶STEP２　意味を「意味順フォルダ」に入れる

次に、「意味順フォルダ」の空いているところに、STEP１で補った意味を入れていきます。

▶STEP３　意味を英語で表す

STEP２でつくった「意味」を英訳して、そのまま並べてみましょう。

21世紀型スキル育成＝知識構成型ジグソー法とICTの融合

知識構成型ジグソー法

- ジグソー法は、あるテーマについて複数の視点で書かれた資料をグループに分かれて読み（**エキスパート活動**）、自分なりに納得できた範囲で説明を作って交換し、交換した知識を統合してテーマ全体の理解を構築したり、テーマに関連する課題を解いたりする活動（**ジグソー活動**）を通して学ぶ、協調的な学習方法の一つです。

※「意味順」はSTEPが明確に分かれており ジグソー法と相性がよいと判断した

ICTを活用

- Google DriveやNet Commonsの掲示板機能を活用する。

↓

- 生徒が自分の書いた英文を友達と直

1. **授業のデザイン**（「授業の柱となる課題」、最終的にその課題に対して「期待する解答の要素」、その要素を満たした解答を生徒が出すために各エキスパートに担保してほしいポイント、そのために使えそうな資料など）

課題	SVO(=that 節)の英文を「意味順式」を使って正しく書く

○このエキスパートでおさえてほしいポイント	○このエキスパートでおさえてほしいポイント	○このエキスパートでおさえてほしいポイント
日本語を「意味の塊」（文節）に分ける。場合によっては、主語を補ったり、英語の語順になじむような日本語へ「翻訳」をしたりする必要がある。	日本語の「意味の塊」を「意味順」に並べる。「だれが」「する・です」がこの文型では二組になるので、それぞれの主述関係をきちんととらえる。	「意味順」になったそれぞれの日本語の「意味の塊」を英語に直す。その時「する・です」のところで時制や主語の人称・数により適切な動詞になるようにする。
⇒具体的に使えそうな資料や活動 日本語の「文節区切り」に関する知識は、Web サイトで検索させる	⇒具体的に使えそうな資料や活動 これまで授業の中で取り上げてきた「意味順」の練習問題を参考にする	⇒具体的に使えそうな資料や活動 必要な語彙を調べるのに Web サイトで検索させる

期待する解答の要素	1．与えられた日本語をきちんと「意味の塊」に分けることができ、かつ、英語にしやすいような日本語へと変換する 2．「意味順」の要である「だれが」（主語）「する・です」（述語動詞）が二組ある複文である点で、きちんと主述関係を認識して意味を捉える 3．各「意味の塊」を英語に直すとき、動詞の時制、主語や目的語の人称代名詞およびその数、そして冠詞の有無などに注意する。

4. 大学の現場から

4.1 学生の個性や特性に応じた指導

1. 個人差・性格の概要
2. 活動内容 (内向的 & 外向的)
3. まとめ(学生の反応 & 教員の振り返り)
4. 参考文献

4.1 学生の個性や特性に応じた指導　よりよい授業構築のために

4.1 学生の個性や特性に応じた指導　個人差に焦点をあてる

より良い授業にするために

- 学生を理解 (Skehan, 1989; Ellis, 2008; Brown, 2008)

- 個人差(Individual Differences) に焦点
  aptitude, anxiety, learner beliefs, learning strategies, willingness to communicate (WTC), motivation, intelligences, learning styles, **personality** (Ellis, 2008)

- Personality
  "Big Two" - Introverted and Extraverted (Ellis, 2001)

4.1 学生の個性や特性に応じた指導　活動例: 内向的

内向的

(1) Word Association
  e.g., Matching the definitions, J-E, Parts of speech

(2) Anagram, Missing Words
  e.g., paelyr, te_n_s

(3) The Odd One Out
  e.g., feet, heads, hands, neck

4.1 学生の個性や特性に応じた指導　活動例: 外向的

外向的

(1) Word Search

e.g., A says the definitions of the words.
B finds/says the key words.

(2) Story Telling

e.g., A sees sequenced pictures and makes a story.
B listens to A.

(3) Finding the Answers

e.g., Do comprehension check with group members.

4.1 学生の個性や特性に応じた指導　まとめ

- つまずいた時のサポート
  積極的に取り組める
  動機を高める
- 各学生に配慮
  学生の特性を知る
- 学習者にとって適切な活動
  多様な活動内容を取り入れる

4.1 学生の個性や特性に応じた指導　参考文献

Brown, H.D. (2007). *Principles of language learning and teaching.* White Plains, NY: Pearson Education.
Dewaele, J.M. & Furnham, A. (1999). Extraversion: The unloved variable in applied linguistic research. *Language Learning, 49 (3).*
Ellis, R. (2008). *The study of second language acquisition, second edition.* Oxford: Oxford University Press.
Ellis, R. (2001). *The study of second language acquisition.* Oxford: Oxford University Press.
Eysenck, S. & Chan, J. (1982). A Comparative Study of Personality in Adults and Children: Hong Kong vs. England. *Personality and Individual Differences, (*3) ,153 -160.
Midorikawa, H. & Robson, G. (2008). *Research into the efficacy of partial emersion: The output of good language learners and their speaking proficiency.* Matsumoto Inc. Tokyo.
Skehan, P. (1989). *Individual differences in second-language learning.* New York: Edward Arnold.
Tsujioka, M., Yatabe, T., & Sonohara, T. (1982). *Y-G Personality inventory*. Takei-Kiki Inc. Tokyo.

4. 大学の現場から

4.2 ペアによる音読指導

4．2．1対象者と実態

（1）英語を専門としていない苦手な大学生、芸術j表現の学生と総合政策の学生、合わせて57名である。

（2）音読経験は4人を除いてほぼ全員、経験がある。

（3） 授業の理解度は「全くわからない」～「わからない」までが、78%を占めている。「やや理解できた」から、「完全に理解できた」かは、22%である。

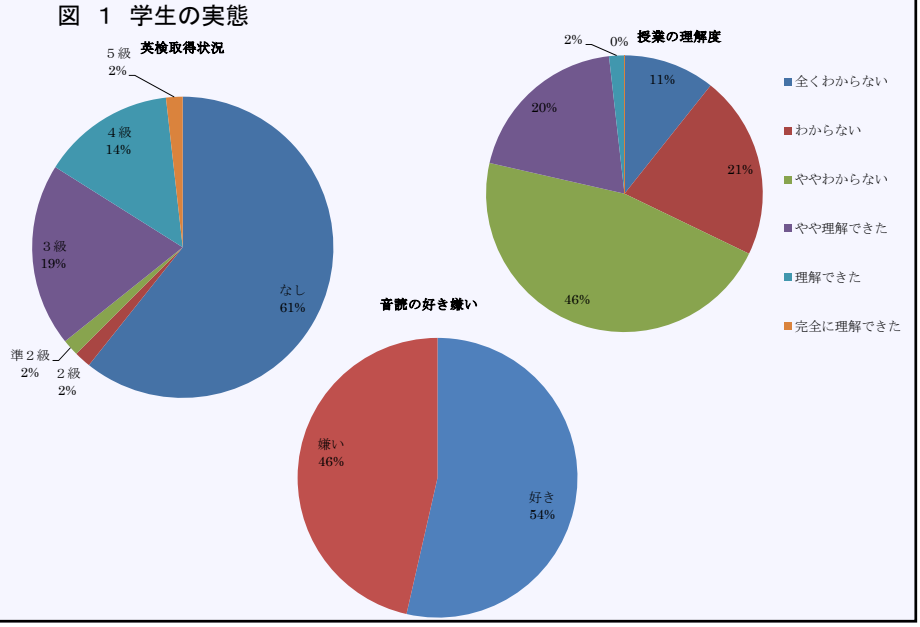
(4) 英検取得状況は「なし」が半分以上を占めている。

筆記とリスニング平均が4月当初35.4点であり、2次試験までは、進めるのは39点であり、平均では2次試験までは進めない。3級取得が到達目標であるとする学生が多いクラスである。

(5) 音読の経験と好き嫌いであるが、音読が好きな学生が半分以上いる。

4.2 ペアによる音読指導　小見出し

図　1　学生の実態



4.2 ペアによる音読指導　小見出し

4.2.2.授業の進め方

次のところの資料参照→教科書本文

1. 教科書の番号をふってあるところにCDを聞き、2語ずつ穴埋めをして、文を完成させる。
   - ・Natural speed　ポーズなし 2回
   - ・ポーズを入れて書く時間を与える。1回
   - ・確かめのためのリスニング1回
   - ・ペアで相談し、答の確認をする。（緊張したところから気持ちがほぐれる。相談のための日本語も話してもよいと言っているので、和やかになる。
   - ・ペアで両方がわからなかったところを中心に再度聞く。

   ペアで相談した答を一斉にマーカーを持って黒板の1～8に2語ずつ入れる。
2. Listen and repeat, overlapping, shadowing, buzz readingを十分行う。
3. buzz readingで十分に個人で練習する。

4.2 ペアによる音読指導　小見出し

HHGhG)Ž*f

è WFþ1 G ‰F÷H aFçFêFô0° F÷FÝG G FÖFúG

HHH8b1 GOG5GQG=

FÚ «FÔFþ M&É iG" º nFéG¹

M ÇFÜ1 G¹

G FÖ M ‰FÝb1 FþGTGŠG/E 1 Fÿ IFßH6×FH Â& FûH µ+ 1 Fÿ EFß3H %·FHFÒFÔG FÔFû "FóFG%& mG"0Û oFéG

FÒG FÔFÿ%& mFþ$Î8bG 1 G ‰G"%$FçFHGIFHéG8ŸFþ dFûFÿ GOG5GQG=G"FôFáFö M&É iG"%&F1mEû3ÉGG"º æFéG¹

HHH¥,e3û0Â ‡*f1 G H5e Œ2013H(2(q g!· H

M ‰Fÿ 1G 0bFúFÔ FÖ M ‰FÿGeGxG•GVFþ ¥ •F¹G"H1ÔÂÔFûÿF¸ &¾G FÒFúFïFþ z1 G" ²FêFÔG G G FÖFûF4G¾Fÿ&¾Fþ Ù ¦G"3¡G G FÖFÛFø îFóFöFÔG uFG¹

4.2 ペアによる音読指導　小見出し

HHHG G G Fã1 G

M ‰FÜ%& mFû,e eG"1FM ‰FÜ 1G 0bFúFÔ%& mFþ0•FóFï eG")ÞG 3ÉFG¹

HHH£ j*{0Â1 G

M ‰Fÿ,e1 G"8b1 FçM ‰FÿFíG G")ÞG 3ÉFÔFÛG 0ÂH1éG mFÿ8b 1 Fþ)Ž*fFø – áFþ& 1 F¸Ú ‰Fÿ – áFþ& 1 G"FéG¹

HHH5„'¹*(FÝ1 G

%& mFÜH •FàG FÔ%& mFþ M&É iFÛGeGxG•GVFû5„%&'¹(F5„'¹ F÷1 G FúFÔ dG"+¬ (Fþ0° G"8—G Fû1FG G FóFïG º æF¹

HHHz m1 G

GhG0F÷Fde playing 1 G FøFúG$Ï Ç"@Fþ ¼ âFñFûFúFóFö1 GFú G G FFãFãF÷F8¡ VFâ1 G H• eG"0bFö1 G#Fð F8¡G" VFâF¸• eG" 0bFúFÔF÷ ŒG" FçFöFÔFöFãG F8¡b1 FÛG / PG « ûFçFþ z% G"FéG¹ÒG F÷ 1 ØG ¨' 8®Fþ8b1 G"FçFî/²FåFëG FþFðFÛlFØG FïG FûFÿ – áFÜ (FÛG¸FíG G",e1 F÷FÔFÖFãFøFÜF÷FÝG G FÔFûFáFöFö $Î/²FÜF÷FÝG¹

4.2 ペアによる音読指導　小見出し

HHGhG0G G>GyGŠGeF÷/œFÖG Fþ
HHHGxGGGYG•G>Fþ'ÅFØ œG FëFø%&1/
HHH¸e e #.0ŽFþ e8ŸF¸
(HH7 Fþ*ºFÝ vG Fþ ÙG
D ¶ Ç →D ØGFø%&1/

G‰#ÕG2 ¸FûFúG Fê8ìFÝFêFûH H (Fþ 5 G"
) FØG FãFøFÜF‡FÝG
G‰ë FÜ%·FÛFóFïFøFÔFÖ ¤ •G¹¨FÔ

4. 大学の現場から

4.3 ITの活用

英語もコンピュータも苦手な学習者に対して、
両方の負担を軽減する方法は？

1. 英字タイピング
   ⇒●キーボード入力の練習
   ●英文つづりの練習

2. 翻訳ソフト
   ⇒英語を自然な日本語に置き換える学習

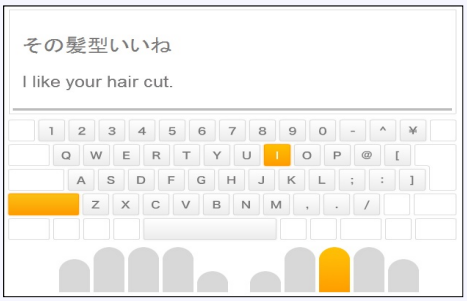
4.3 ITの活用　中村紘子

4.3 ITの活用

1．英字タイピング（無料タイピングウェブページ）

① 基本ポジションを練習　　② 英字入力を練習

パソコン検定　検索　　e-typing　検索



4.3 ITの活用　中村紘子

4.3 ITの活用

1．英字タ

☆過程

a.　1学期中

b. 毎週の結

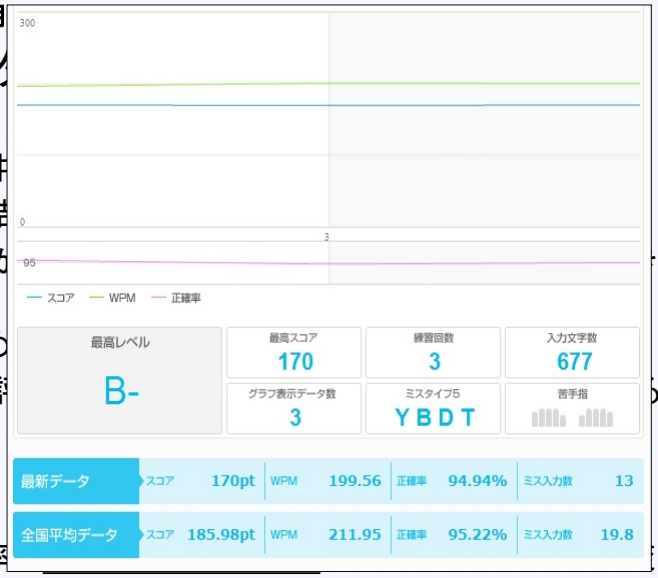
　⇒結果か　　たて

る。

c. 学期初め

　⇒成績評　　。

☆結果　⇒



　正確率　　化し

た。

☆考察　⇒　英語に関するテストを行わなかったので、今後単語・ス

4.3 ITの活用

2. 翻訳ソフト

インターネット上の辞書サイトを用意（無料）

weblio　検索

原文

“A wolf killed and ate an animal. Suddenly a small bone stuck in his throat.”

利用方法　⇒　童話（イソップ物語）を英文で読むときに利用

翻訳ソフト

「オオカミは、動物を殺して、食べました。突然、小さな骨は、彼ののどを差し込みました。」

結果　⇒　一から翻訳する自信がなくても、翻訳ソフトを介して、不自然な日本語を訂正することにより、童話内容の理解に役

学習者による置き換え

「狼は動物を食べた。その時にその動物の骨がひっかかった。」

実践交流、意見交流

- 難易度や量の調整で困っていること
- 難易度や量の調整で工夫していること

その他